

開設年度：2014年度		科目コード：9140018	
授業科目名：人文学特論		科目の種類： 基盤研究科目	単位数：2単位 担当教員名： 所属プログラム教員
開講時期：第1学期		履修年次：第1年次	授業の形式：演習（集中）
授業の概要 研究の基礎となっている文献や資料の読解を通じて、哲学・思想学、美学、文学、言語学、歴史学、社会人類学・文化人類学など、人文学の諸分野における研究の方法・成果を通観し、人文学における幅広い研究的教養を涵養する。異なる分野の精粹を学習し、専門分野における思考・分析の深化を図る。			
到達目標 人文学研究における隣接諸分野の研究手法・成果を吸収し、専門分野における研究を深化させる。			
実施方法			
[実施期間]		前半 4月の入学オリエンテーション当日午後および翌日曜日の2日間 集中講義（8コマ）。 後半 6月第一土曜日～日曜日の2日間集中講義（7コマ）。	
[実施場所及び実施方法]		幕張本部または東京文京学習センターにて直接対面指導を行う。 参加できない場合はWeb会議システムにて間接対面指導を行う。	
[課題]		前半及び後半実施前に事前課題を与える。 前半及び後半実施後にレポート課題（前半課題：レポートⅠ、後半課題：レポートⅡ）を与える。	
[放送教材・印刷教材の活用]		事前課題及びレポート課題の出題にあたっては、必要に応じて、指定の放送教材・印刷教材をレポート作成の素材として利用させる。その際、放送教材・印刷教材は単に知識の伝達手段として用いるのではなく、今後の研究遂行及び学位論文執筆のためのモデルとして利用させる。	
授業計画			
第1回	哲学・思想学研究に関する古典的文献や資料を講読し、哲学および思想的分析の方法・成果を習得する。	担当：哲学・思想学領域担当教員	
第2回	美学研究に関する古典的文献や資料を講読し、芸術作品の評価法を通じて「美」に関する哲学的分析の方法・成果を習得する。	担当：美学担当教員	
第3回	文学に関する古典的文献や研究資料を講読し、文学研究の方法と成果を習得する。	担当：文学領域担当教員	
第4回	文学に関する古典的文献や研究資料を講読し、文学研究の方法と成果を習得する。	担当：文学領域担当教員	
第5回	文学に関する古典的文献や研究資料を講読し、文学研究の方法と成果を習得する。	担当：文学領域担当教員	
第6回	言語学・コミュニケーション学に関する古典的文献や研究資料を講読し、言語学・コミュニケーション学の研究方法と研究成果を習得する。	担当：言語学・コミュニケーション学領域担当教員	

第7回	言語学・コミュニケーション学に関する古典的文献や研究資料を講読し、言語学・コミュニケーション学の研究方法と研究成果を習得する。	担当：言語学・コミュニケーション学領域担当教員
第8回	言語学・コミュニケーション学に関する古典的文献や研究資料を講読し、言語学・コミュニケーション学の研究方法と研究成果を習得する。	担当：言語学・コミュニケーション学領域担当教員
第9回	日本史学に関する古典的著作や史料を講読し、日本史学研究の方法・成果を習得する。	担当：日本史学領域担当教員
第10回	日本史学に関する古典的著作や史料を講読し、日本史学研究の方法・成果を習得する。	担当：日本史学領域担当教員
第11回	東洋史・西洋史学の古典的著作を講読し、東洋史・西洋史学の方法・成果を習得するとともに、現地調査の方法の基礎を学習する。	担当：東洋史・西洋史学領域担当教員
第12回	東洋史・西洋史学の古典的著作を講読し、東洋史・西洋史学の方法・成果を習得するとともに、現地調査の方法の基礎を学習する。	担当：東洋史・西洋史学領域担当教員
第13回	人類学の古典的著作を講読し、人類学の方法・成果を習得するとともに、現地調査の方法の基礎を学習する。	担当：人類学領域担当教員
第14回	人類学の古典的著作を講読し、人類学の方法・成果を習得するとともに、現地調査の方法の基礎を学習する。	担当：人類学領域担当教員
第15回	全体会：ディスカッションとフィードバック	担当：所属プログラム教員
評価方法 提出されたレポートⅠ及びⅡをもとに、総合的に評価する。 評価配分：レポートⅠ50%、レポートⅡ50% 評価責任者：魚住孝至		
教科書 人文学に関係した文献等を適宜使用する。		
参考書 放送大学大学院印刷教材『道を極める（'16）』、『国文学研究法（'15）』、『異言語との出会い（'17）』、『美学・芸術学研究（'19）』、『日本史史料論（'15）』（放送大学教育振興会）および各担当教員の著書・論文等		
備考 担当回は変わることがあり、オリエンテーション時に通知する。		